

北方地域ユネスコエコパーク準拠点施設整備（旧下鹿川小学校）に関する意見募集

北方地域ユネスコエコパーク拠点施設整備・誘客促進事業

北方地域ユネスコエコパーク準拠点施設整備

（旧下鹿川小学校）に関する意見募集

目 次

1. 準拠点施設（旧下鹿川小学校）整備のこれまでの経過 … P 1
2. 施設の所在地 … P 2
3. 準拠点施設のコンセプト … P 3
4. 準拠点施設（旧下鹿川小学校）の現状 … P 4
5. 再度の基本設計の結果に対する検討及び協議内容 … P 5
6. 北方地域ユネスコエコパーク宿泊滞在型施設等整備の考え方 … P 6
7. まとめ … P 7

1. 準拠点施設（旧下鹿川小学校）整備のこれまでの経過

令和2年度に策定した「北方地域ユネスコエコパーク拠点施設整備構想」（以下「整備構想」という。）に基づき、準拠点施設に位置付けた下鹿川地区にある旧下鹿川小学校を宿泊滞在型の施設とするため、令和4年度に北方地域ユネスコエコパーク準拠点施設整備計画（以下「整備計画」という。）、令和5年度には北方地域ユネスコエコパーク準拠点施設（旧下鹿川小学校）整備基本設計（以下「基本設計」という。）を進めてきました。

しかしながら、旧校舎棟などの改修に係る費用が整備計画策定時と比較して大きく増額となる見込みであることが判明したため、令和6年度は、改修費用の抑制を含め、安定的に継続可能な施設改修内容を探るサウンディング型市場調査を実施したほか、整備推進委員会および外部の専門的知識経験を有するアドバイザーの意見を踏まえ、旧校舎棟は取壊し、施設を新設する整備内容の変更をとりまとめ、令和7年4月から9月までの間、再度の北方地域ユネスコエコパーク宿泊滞在型施設等整備基本設計を進めてきました。

再度の基本設計の結果では、施設の新設に係る費用は30,178万円となり、旧校舎棟の改修費（41,400万円）と比較して工事費の縮減が図られたものの、令和4年度に策定した整備計画時の概算工事費（15,500万円）と比較すると依然として高額であり、宿泊需要が見込みづらい中で宿泊機能を備えることによる維持管理費も懸念点であったため、再度外部有識者であるアドバイザーの指導・助言、地元住民との意見交換会・ワークショップの開催のほか、整備推進委員会において協議を実施し、整備内容の見直しを行いました。

（見直し内容は、5頁～6頁）

【これまでの経過】

- ・令和3年1月 「北方地域ユネスコエコパーク拠点施設整備構想策定委員会」設置
- ・令和3年3月 「北方地域ユネスコエコパーク拠点施設整備構想」策定
- ・令和3年6月 整備構想のパブリックコメント実施
- ・令和4年2月 「北方地域ユネスコエコパーク準拠点施設整備検討委員会」設置
- ・令和5年3月 「北方地域ユネスコエコパーク準拠点施設整備計画」策定
- ・令和5年5月 整備計画のパブリックコメント実施
- ・令和6年1月 「北方地域ユネスコエコパーク準拠点施設整備推進委員会」設置
- ・令和6年3月 「北方地域ユネスコエコパーク準拠点施設（旧下鹿川小学校）整備基本設計」策定
- ・令和6年6月 民間活用に係るサウンディング型市場調査
- ・令和6年8月 「北方地域ユネスコエコパーク準拠点施設整備推進委員会」再設置
- ・令和6年10月 北方地域ユネスコエコパーク準拠点施設整備アドバイザー委嘱
- ・令和7年1月 準拠点施設整備の変更整備内容策定
- ・令和7年8月 「北方地域ユネスコエコパーク準拠点施設整備推進委員会」再設置
- ・令和7年9月 「北方地域ユネスコエコパーク宿泊滞在型施設等整備基本設計」策定

2. 施設の所在地

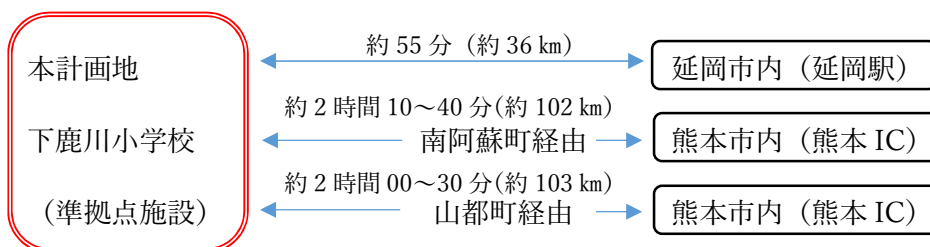
施設所在地（旧下鹿川小学校）：延岡市北方町下鹿川申 214 番地 1

計画地は山々に囲まれ、脇には小川も流れる自然豊かな場所ですが、一方、交通アクセスは容易とは言えず、地形的に敷地も限定されています。

<周辺施設との位置関係> ※計画地とその周辺施設までのルートと所要時間



計画地である「旧下鹿川小学校」と最寄りの都市までの所要時間は下記のとおりです。

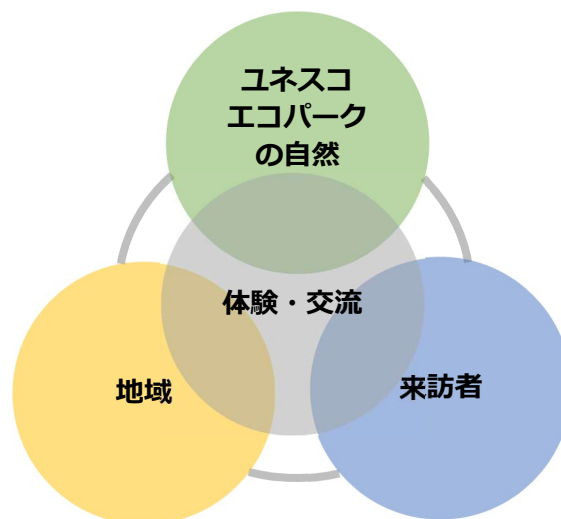


3. 準拠点施設のコンセプト

ユネスコエコパークの泊まれる基地として、自然を学ぶとともに、クライミングなどの“ここにしかない体験”に一步踏み出すための拠点へ

準拠点施設は、ユネスコエコパークの豊かな自然を学ぶとともに、比叡山のクライミングなどのここにしかない体験に一步踏み出していくための泊まれる基地として、来訪者へ価値を提供します。

また、準拠点施設の運営においては、地域資源の活用や、地域住民と来訪者の交流を重視することで、ここにしかない体験を来訪者へ提供し、来訪者や出身者の関係人口化を促しながら、将来的な地域づくりの担い手確保へ繋げていくなど、ユネスコエコパークの持続的な発展への貢献を目指します。



ユネスコエコパークの自然

- ・ロッククライミング・ボルダリングの聖地である比叡山を中心に、綱の瀬川や棚田など、自然を活かしたアウトドアスポーツや各種体験のプログラムを提供するための基盤です。

地域

- ・棚田での田植えや山菜採り、タケノコ寿司の食文化など、生活の中で育まれてきた地域資源や、地域の自然と共生して暮らしてきた地域住民、地域外に転出した出身者のことです。

来訪者

- ・ユネスコエコパークの自然・文化やそれらを守る活動、また、当地で体験できるアウトドアスポーツ等に関心を持って準拠点施設を来訪する人々のことです。

4. 準拠点施設（旧下鹿川小学校）の現状

既存建築物の概要

	建設年度（経過年数）	構造/階数（延床面積）
旧校舎棟	1986(S61)年（37年）	RC造/3階（763㎡）
体育館	1993(H5)年（30年）	W造/1階（543㎡）
屋根付き運動場	2007(H19)年（16年）	S造/1階（325㎡）
旧校長住宅	1977(S52)年（46年）	WRC造/1階（70㎡）
旧職員住宅	1981(S56)年（42年）	WRC造/1階（123㎡）

※経過年数は2023年時点を基準とする。



5. 再度の基本設計の結果に対する検討及び協議内容

1 頁において触れたとおり、再度の基本設計の結果において、施設の新設に係る費用（30,178 万円）は、令和 4 年度に策定した整備計画時の概算工事費（15,500 万円）と比較しても依然として高額であったことなどを受け、再度、外部有識者であるアドバイザーの指導・助言、地元住民との意見交換会・ワークショップの開催のほか、整備推進委員会において協議を実施してきた。

【協議実施状況】

時 期	内 容
R7.10.28	地元（下鹿川地区）住民説明会・意見交換会
R8.1.13	地元（下鹿川地区）住民ワークショップ
R8.2.3	準拠点施設整備アドバイザーとの協議
R8.2.13	北方地域ユネスコエコパーク準拠点施設整備推進委員会

外部有識者であるアドバイザーの指導・助言、地元住民との意見交換会・ワークショップの開催のほか、整備推進委員会において協議を実施した事項及び意見は以下のとおり。

【宿泊施設設置の必要性】

宿泊需要が見込みづらいことや既に鹿川キャンプ場に宿泊機能があることを含め、宿泊施設整備の効果は限定的であり宿泊機能の必要性は低い。また、当地域の施設整備については、鹿川キャンプ場を含め一体的に考える必要があり、鹿川キャンプ場の宿泊機能を強化した方が効果も期待でき、鹿川キャンプ場の宿泊機能を充実する方が優先である。

【地域交流拠点施設の必要性】

ユネスコエコパークエリア内への人の誘客や自然との共生など、基本構想の目的や趣旨に沿った施設は必要である。インフォメーション機能、休憩所、体験活動・セミナーが行える場としての活用が見込めるとともに、地域住民も含めたコミュニケーションづくりの拠点となる。

【旧校舎棟の取り壊しについて】

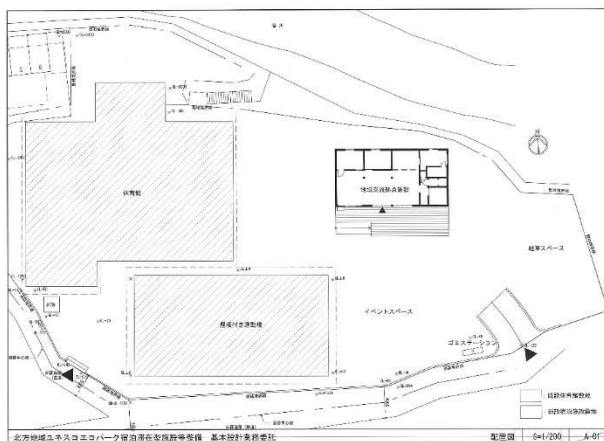
地域交流拠点施設のための整備とした場合、校舎の改修も考えられるが、施設の規模が大きすぎることや、施設の老朽化も進行しており、改修費や将来に渡る維持管理費が新設より高額となる可能性があるほか、取壊し後の跡地に施設整備を行う条件において、取壊し費用に地方債（過疎債又は辺地債）の財源活用が可能となることから、取壊しを行い新設すべきである。

6. 北方地域ユネスコエコパーク宿泊滞在型施設等整備の考え方

準拠点施設の整備方針について、施設整備の必要性や整備費用の縮減策などに関し慎重に検討を進めていく中で、宿泊施設および地域交流拠点施設整備の必要性、旧校舍棟の取壊しについて、外部有識者であるアドバイザー、地元住民、整備推進委員会の総意として意見をいただいた。

本市としては、これらの意見を尊重しつつ基本構想の趣旨・目的に沿った施設整備となるよう整備規模及び内容の精査を引き続き行うとともに更なる経費節減に努め、旧校舍棟などを取壊した上で、地域交流拠点施設1棟を整備するものとしたい。

なお、地域交流拠点施設1棟のみの整備とした場合の平面図（案）及びこれまでの施設整備計画に係る概算工事費等の比較は以下のとおり。



<地域交流拠点施設1棟のみの整備とした場合の平面図>

【概算工事費等比較表】

	拠点施設整備構想 (時期：R4.3)	基本設計（1回目） (時期：R6.3)
概算工事費等	155,000 千円	414,000 千円
解体費	-	-
工事費等合計	155,000 千円	414,000 千円
整備内容	旧下鹿川小学校を宿泊滞在型施設への改修	
宿泊定員数	未定	59 名

	基本設計（2回目） (時期：R7.9)	今回の整備（案） (時期：R8.3)
概算工事費等	184,305 千円	82,223 千円
解体費	117,481 千円	117,481 千円
工事費等合計	301,786 千円	199,704 千円
整備内容	地域交流拠点施設1棟、 コテージ2棟、コンテナハウス4棟	地域交流拠点施設1棟
宿泊定員数	16 名	-

7. まとめ

- 施設の規模 地域交流拠点施設（延床面積約 100 m²× 1 棟、木造）
- 施設の用途 地域交流拠点
- 施設機能 インフォメーション機能、カフェスペース（休憩所）、トイレ、自動販売機（冷食等軽食含む）、学習・研修等用設備、調理場、シャワー
- 概算工事費 約 199,704 千円
（内訳）建物工事費：約 82,223 千円
旧校舍棟など解体費：約 117,481 千円
※辺地対策事業債の活用を想定しています。元利償還金の 80% 地方交付税で交付されるため、市の負担は 20%（39,940 千円）を見込んでいます。
- 概算年間管理費 約 2,400 千円
※人件費、光熱水費、維持管理費（設備法定・保守点検費、通信運搬費、消耗品費）などを積算していますが、施設のリモートロック化を前提とした最小限の人件費で算出しています。
- 利用料金等収入 施設はフリースペースとしての利用を想定しているため、利用料金収入は見込んでいませんが、占用できるスペースを設置した場合は利用料金収入が想定されます。また、自動販売機を設置した場合は売上収入が想定されます。
- 管理運営方法 管理運営方法は指定管理施設としての運用を想定しています。
必要となる指定管理料については、年間管理費から利用料金収入を差引いた額となる見込みです。

<問い合わせ先>

延岡市北方総合支所 地域振興課

〒882-0192 延岡市北方町川水流卯 682 番地（北方総合支所）

TEL 0982-47-3600 FAX 0982-47-2218

E-mail tiiki-kitakata@city.nobeoka.miyazaki.jp